

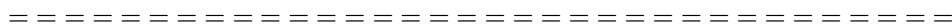


2019.1.24



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。



■日本で育つ■

埼玉県深谷市には、1990 年入管法改定の頃から、ペルー出身者が多く住んでおり、2004 年から北部日本語学習支援連絡会では海外出身市民のための進学情報交換会を開始しました。ペレスミドリさんは高校 1 年から大学を卒業し社会人となった今年も、毎年参加して自身の体験を話したり、実行委員として協力をしたりしています。2 歳で来日、家庭ではスペイン語、学校では日本語という環境の中で、進学や進路を考え実現していくために、必要なことは何だったのかを書いていただきました。

.....

2 歳から日本で育つ ～家庭ではスペイン語、学校では日本語

ペレス ミドリ

◆ペルーから 2 歳で来日

私は、両親が日本で仕事をするため、2 歳の頃に日本に来ました。その当時は日本語が全く分かりませんでしたが、保育園に入り、小学生になる頃には不自由なく話すことができました。しかし両親は、仕事でも日本語をあまり話す機会が無いため日本語を覚えることができませんでした。そのため、私は家庭内ではスペイン語、学校は日本語という環境で育ってきました。今では、両方の言語が不自由なく話せるのでとても感謝していますが、当初はそのことがすごく嫌でした。両親に何も相談できず全て自分でなんとかしました。学校から

送られる手紙など、すべて自分で理解して両親に通訳したり、勉強などわからないことは自分で調べたり、友達に手伝ってもらったりして一生懸命頑張りました。

◆進路に関する情報

小学校や中学校はまだよかったのですが、中学３年当時、進路を決める時が一番大変でした。そもそもペルーには高校というものがないですし、受験制度も全く違うので両親に理解してもらうのが大変でした。受験についてスペイン語で説明するのは難しいので、私は両親にとってもいらいらしていましたし、全く理解してくれないので、とても嫌になり相談もしなくなりました。学校でも三者面談をおこなっても、先生と私だけの話になってしまい説明するのも難しいので、全く意味がないものになっていました。

◆「未来をさがそう」

そんな中、中学校から北部日本語学習支援連絡会主催・深谷市教育委員会共催の「未来をさがそう」(注)という会があるので、参加してみないかと言われました。このことについて全く聞いたことがなかったのですが、とりあえず両親は参加してみました。実行委員長の当間ミゲルさんはペルー出身なので、スペイン語で詳しく説明をしてくれました。ここに参加することにより、日本の受験システムとはどのようなことなのか、スペイン語で疑問点を解消できました。その後、両親は私の進路先を理解し、何でも話しやすくなりコミュニケーションをとることができました。

◆高校生として体験を話し、通訳をする

高校生になった時、ある先生に「未来をさがそう」で経験を話してみてはどうかというお誘いをいただきました。私は受験生の時にすごく助けになったことを思い出し、今度は自分が参加し同じ境遇の子ども達とその両親の助けになりたいと思いました。それ以来毎年参加し、大学生となってからは実行委員として一緒に活動しています。

◆子ども達も、問題がないように見えて実は問題だらけ

今、日本にはたくさんの外国人がいますが、多くの人が金銭的な問題や、言

語の問題を抱え進学をあきらめています。外国人が大学に行って日本の企業に就くことは難しいと思っているのです。もちろん進学するのは簡単ではありませんが、難しくありません。ただ勉強することです。または金銭的問題でしたら援助を受ける方法はたくさんあります。ただそれを知る機会がないのです。

今は日本にたくさんの外国人がいるのに、学校側の外国人の対応はまだまだだと感じます。日本で生まれ育っている子どもが多いので日本語が問題なく話せる子どもは多いので、学校での生活は問題ありません。だから学校側は何もしません。しかし日本語はわかるけれど勉強になると何も理解していないのが現状です。教科書を読んではいるけれど、理解はしていないのです。学校でもらう手紙などは両親が日本語がわからないので読んでいません。問題がないように見えて、実は問題だらけなのです。

全てが学校側の問題であると言いません。家庭ではスペイン語だけなので日本のテレビやニュースを見ないから、友達との会話についていけない人もいます。他にも多くの問題が重なり勉強についていけないという状況があると思います。この問題を解決するのは難しいと思います。だから、ですから「未来をさがそう」のような外国人を支援し少しでもみんなに自分のやりたいことを見つけて、進学することの大切さを気づかせてくれる場所がもっと増えてきてほしいと思います。

そのため、私は大学生の時には外国人の子ども達に家庭教師も始めました。勉強を教えるだけでなく、両親とも話す機会を設け高校や大学についてたくさん話したり、子ども達の意見を聞き伝えたりして間に立って活動してきました。

そして今は、社会人となり、子ども達と接する時間をもつことは難しいですが、これからも「未来をさがそう」に参加します。子ども達には「外国人だから」という考えを捨てて、日本にいる一般国民として自分のやりたいこと・できることを見つけて頑張ってもらいたいと思います。

今、私は小さいころの夢であった医療関係の仕事についています。海外から日本の市場にまだ進出していない医療機器を輸入し展開をしています。私は医療機器の修理・デモ機の貸出をおこない医療の基本的なことを学んでいます。まだ直接海外とは取引させてもらっていませんが、数年後には任せてもらえるように、今は働きながら一生懸命英語や医療系の資格取得の為、勉強に励んでいます。

(注)「未来をさがそう in 深谷 〜進学情報交換会」について

主催・北部日本語学習支援連絡会、共催・深谷市教育委員会

毎年、深谷市公民館で9月初旬の日曜日に行っています。高校の先生、中学の先生のお話、高校受験の体験談、就学支援金など通訳つきで情報提供をしています。2019年も9月の日曜日に実施する予定です。

【「未来をさがそう」実行委員会より】

ペレスさんは、高校受験の貴重な体験を話してくれています。単に高校の情報だけではなくて、周りの人、特に両親とよく話し合うことがとても大切であるといつも伝えてくれます。受験生本人だけでなく保護者の理解を広めることが重要であるとガイダンスの支援者も痛感しています。昨年から、ペレスさんは社会人となり、さらに多忙になっていますが、ペレスさんの存在はとても大きいものがあります。

(「未来をさがそう in 深谷」実行委員会 松尾恭子)
